

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 11月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	4071601506		
法人名	医療法人 聖峰会		
事業所名	グループホーム ひまわり2号館		
所在地	福岡県久留米市善導寺町飯田1393-9 〒839-0824 (電話) 0942-23-3662		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年11月5日	評定確定日	平成19年12月3日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人 常勤	15人 非常勤	1人 常勤換算 15,6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての~	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(100,000円) 無	有の場合 償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	450円
	夕食	530円	おやつ	食費に含む円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

登録人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	2名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 86,2歳	最低	73歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人 聖峰会 田主丸中央病院 ・ぜんどうじ整形外科		
---------	------------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

お天気の良い日は、耳納連山を望むことができる、閑静な田園地帯の中にたたずむホームである。ホームは木造平屋建てであり、吹き抜けの高い天井とユニット間が交わる場所へ中庭を配することにより採光を工夫し、やわらかな明るさにつつまれており、各ユニット毎の個性を伺うことが出来るとともに、閉鎖的でなく開放感があり、かつ、安全面に配慮した構造となっている。希望する医療機関への受診は家族対応にて可能であり、希望医療機関受診後は、家族から報告を受け記録をつけるなど、緊急時に適切な医療を受けられるように取り組んでいる。自治会に加入しており、回覧版回し、町内清掃等、ふつうの近所付き合いがなされており、ホーム行事や避難訓練等に地域住民の参加が見られるなど、地域とともに成長している様子が伺われる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価を受けて、全職員で協議を行い、改善できる部分は直ぐに改善に着手するなどの取組みがある。また、運営推進会議での外部評価について報告がなされるなど、公表へ向けて積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、グループに分かれて職員間で協議しており、その過程において、改めて評価内容や職員一人ひとりの考え方について学ぶ機会を得るなど、気づきを生む結果に繋がっている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会長、民生委員、区長、老人会長等の参加により、2ヵ月毎に開催されている。運営推進会議時に、外部評価結果の報告や現状についての報告、消防訓練への協力依頼を提案するなど、質の向上にむけての取り組みや検討が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけ・説明、家族会や運営推進会議での働きかけ、職員と家族とのかわり、その都度の電話連絡などにより、家族の要望や希望の表出に努めている。出てきた声はミニカンファレンス時に協議し、反映させている。ホーム便りの発行を通して、入居者の日々の様子や職員の様子を知らせたり、ホーム行事の案内や報告が行われている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、回覧版回し、町内清掃、散歩時の挨拶等、ふつうの近所付き合いがなされている。ホーム行事や避難訓練時等に地域住民の参加が見られるなど、地域に溶け込んでいる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当時からの理念であるが、全職員で協議 した結果をふまえて作成されている。事業所と 地域との関係を重視した理念の内容となってい る。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示しており、自然と目に 付く工夫がある。朝礼時に唱和するなど、職員 は暗記しており、日々のケアを通して理念の実 践へ取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	自治会に加入しており、回覧版回し、町内清 掃等、ふつうの近所付き合いがなされている。 ホーム行事や避難訓練時等に地域住民の参加が 見られるなど、地域に溶け込んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価を受けて、全職員で協議を行 い、改善できる部分は直ぐに改善に着手するな どの取組みがある。今回の受審にあたり、再 度、グループに分かれて職員間で協議するな ど、全職員での質の向上に向けた取組みがあ る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、区長、老人会長等の参加により、2ヵ月毎に開催されている。運営推進会議時に、外部評価結果の報告や現状についての報告、消防訓練への協力依頼を提案するなど、質の向上にむけての取組みや検討が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政窓口及び地域包括支援センターへ、運営推進会議の議事録の提出とともに内容説明に出向いている。また、地域密着型へ移行したことに伴って、他の地域からの入居者の相談に出向くなど、行政との連携を図る取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に説明した実績はあるが、推進会議へ参加していない家族への説明は行われていない。行政等でされる制度についての研修会へは、随時参加予定である。		家族会や運営推進会議時等を利用して、定期的・継続的に制度の説明及び情報提供を行い、制度の正しい理解と周知に努めてほしい。また、全職員が制度について理解を深めることができるような取組みを期待する。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ、その都度の電話連絡などにより報告がなされている。また、ホーム便りの発行を通して、入居者の日々の様子や職員の様子を知らせたり、ホーム行事の案内や報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の説明、家族会や運営推進会議での働きかけ、職員と家族とのかかわりを通して家族の要望や希望の表出に努めている。出てきた声は、ミニカンファレンス時に協議するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入った時は、入居者に対してきちんと挨拶と紹介を行い、馴染みの職員がメインでつくなど、ケアの心理的継続性に配慮した工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関しては、何ら制限は行われていない。職員の前職や特技を考慮して係りをきめるなどの対応がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員基礎研修に尊厳についての研修が含まれており、基礎研修を通しての取組みはあるが、職員の人権意識を喚起するような勉強会などへの取組みは、今後の課題である。		認知症の方をケアする職員の基本的資質として人権意識が必要であり、その基本的人権意識を喚起する意味において、行政等で行われる研修や講話への参加、出前講座の利用などに取り組んでほしい。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体病院での勉強会への参加、テーマを決めてホーム内での勉強会などの取組みがある。外部研修の案内を掲示して参加者を募ったり、管理者から指名して参加するなど、外部研修参加への機会の確保と研修参加の実績がある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2ヶ月に1度のグループホーム協議会主催の勉強会への参加を通して、職員レベルでの交流や連携が図られている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	そばについて話したり、自宅を見に帰るなど、入居者の気持ちに沿った対応を通じて、何時でも自宅に戻れるという安心感につながりながらサービスに慣れてもらう工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器洗いの手順、料理の味付けや料理の手順など、日常のかかわりの中で常に入居者から学ぼうとする取組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で入居者の意向や思いを把握し、家族の面会時の声かけや記録内容の説明、その都度の連絡、ホーム便りの送付などを通じて家族の思いや希望の把握に努めている。センター方式を利用した希望等の記録はこれからである。		来年度からセンター方式へ取り組まれるとのことです。全利用者に対して、センター方式を利用して、把握した内容の充実に努めてほしい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時の声かけやその都度の連絡、日常のかかわりの中から、入居者や家族の意向の把握に努め介護計画に反映させている。朝のミーティング時に他の職員と協議を行い、情報を集め、カンファレンスを行うなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	朝のミーティング時に、必要な入居者 に対する情報交換が行われている。3～ 6ヶ月の間で不定期でのカンファレン スの開催である。		変化の有る無しにかかわらず、勉強会 等を利用して月に1度のカンファレン スを確実にし、入居者・家族の意向 の確認や状況の確認を行い、全職員 の気づきを取りまとめ、意見の統一 を図ってほしい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能 性を活かした柔軟な支援をしてい る	運営推進会議時に介護に対しての 相談を受けたり、地域の方が立ち 寄りた際の介護相談に応じてい る。また、空きベッド利用のショ ートステイを実施するなど、柔軟 に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ 医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように 支援している	ホーム協力医はあるが、希望する 医療機関への受診は家族対応にて 可能である。希望医療機関受診 後は、家族から報告を受け記録 をつけるなど、緊急時への配慮 がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の 共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段階 から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全 員で方針を共有している	契約時に看取り看護についての 同意書を得る際に、重度化した 場合のあり方を協議している。 また、その時々において、家族 から希望を聞き協議を行うなど の支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者に対するお礼の声かけがなされてお り、目線を合わせての会話や丁寧な受け答え、 トイレ等の誘導時は入居者の耳元で声かけする などの、対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしてのおおまかな流れをおさえた上 で、食事を始めるタイミングや食事にかかる時 間等、入居者のペースを尊重した対応が見られ た。昼食後、仲の良い入居者同士での談笑する 方、お昼寝をする方など、自由に過ごされてい た。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	野菜の皮むきや味付け、テーブル拭き、下膳 など、その時々で出来ることをしていただい ている。毎月1日は行事食を取り入れ、洋風のメ ニューを和風にアレンジするなどの工夫があ る。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	入浴は基本的には1日おきであるが、入居者 の希望に沿った支援である。入浴拒否の傾向の ある入居者に対しては、無理強いせず、仲の良 い入居者同士で入浴してもらうなどの取組みが ある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	詳細なアセスメントにより、入居者一人ひと りの生活歴や出来ることなどを把握し、介護計 画に反映させての支援がある。また、日常生活 を通して、入居者間で自発的な日課が生まれ、 日課に沿った支援が行われている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	毎朝の散歩、買い物、計画立てでの外出やそ の都度のドライブなど、柔軟な対応がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠しており、職員は入居者の様子 を良く観察しており、職員間での声かけや見守 り、外出傾向があれば後ろからついて行くな ど、入居者の自由な暮らしを支える取組みがあ る。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	運営推進会議時に地域を含めた避難訓練の提 案を行い、地域の協力のもと、地域住民も参加 しての避難訓練の実施がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューを考案する職員が主となって考案 後、職員間で協議して作成されている。入居者 一人ひとりの状況に応じた食事形態や食事量と し、食事摂取のチェックを行っている。必要な 入居者に対して、水分チェックを行うなどの 支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには生花が飾られ、各ユニットに は季節を感じる装飾がなされており、廊下突き 当りにソファを設置することによりホール 以外でもくつろぐことが出来たり、中庭の設置 による明るさの調整など、居心地良い空間作り への工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	入居者の居室は、箆笥や整理ボックスなどの 馴染みの物が持ち込まれており、写真が飾られ ているなど、一人ひとりの個性が伺える部屋で あった。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号